

健康増進センター工事事故にかかる説明会 次第

日時 平成22年4月28日(水)
午後6時30分から
場所 網干西小学校体育館

1 開会

2 市長あいさつ

3 講演

「エコパークあぼしの安全対策について」

講師 東京大学名誉教授 平野 敏右 氏

(質疑応答)

4 姫路市からの説明

「事故の概要及び安全対策等」

(質疑応答)

5 閉会

講演「エコパークあぼしの安全対策について」

ひらの としすけ

東京大学名誉教授 平野 敏右 氏

【プロフィール】

1970年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程修了(工学博士)

1976年 東京大学工学部助教授

1985年 東京大学工学部教授

2001年 独立行政法人消防研究所理事長

2004年 千葉科学大学 学長

【活動実績】

- ・国際火災安全科学学会会長(1997年～2002年)
- ・アジアオセアニア火災学会会長(1992年～1995年)
- ・国際燃焼学会常務理事(1994年～)
- ・日本燃焼学会会長(1988年～1994年)
- ・日本火災学会会長(1999年～2001年)

【専門分野】

爆発事故、燃焼学、火災科学、安全科学、環境学、危機管理学

事故の概要及び安全対策等

(1) 事故の概要

- ① 爆発事故発生日時 平成 22 年 3 月 25 日（木）午前 9 時 10 分頃
- ② 爆発事故発生箇所 網干健康増進センター建設現場

(2) 事故後の経緯及び対応

- ・ 3 月 27 日から焼却施設、再資源化施設、環境楽習センターの屋内で開口部（空気抜き）を設けるなど換気対策をとり可燃性ガスの測定開始。（焼却施設、再資源化施設、環境楽習センターの屋内）
- ・ 測定の結果、検知された可燃性ガスは微量であることから、安全のため測定を続けながら 4 月 1 日に上記 3 施設をオープン。
- ・ 4 月 9 日に健康増進センター東側雨水排水管にて爆発の恐れがあるとされる高濃度の可燃性ガスを検知したため焼却炉を停止するとともに、再資源化施設、環境楽習センターを一時閉鎖。
同日より測定地点を屋外に拡大。
- ・ 4 月 10 日以降、可燃性ガスの測定を継続。
- ・ 4 月 10 日に第 1 回網干健康増進センター事故対策本部会議を開催（本部長市長）
- ・ 4 月 11 日に消防庁消防大学校消防研究センター員（古積博氏他 3 名）現地視察
- ・ 4 月 12 日に焼却ごみの他市町ごみ処理施設へ搬入開始
- ・ 4 月 15 日に市のホームページに事故対応状況を掲載
- ・ 4 月 20 日に第 1 回網干健康増進センター事故に係る調査・安全対策検討委員会（以下、「調査・安全対策検討委員会」）開催
（委員名）平野敏右委員長、古積博委員、石塚悟委員、栗原英隆委員
- ・ 4 月 23 日から、調査・安全対策検討委員会の指導・助言のもと安全対策工事を実施
- ・ 4 月 27 日に第 2 回調査・安全対策検討委員会開催

(3) 可燃性ガスの測定結果

4月9日～27日までに高濃度可燃性ガスを検知した箇所数は、
屋外12箇所および爆発地点付近1箇所

※メタンを含むとされている可燃性ガスは、空気よりも軽いためマンホール等に開口部を設けることにより大気中に拡散します。また、メタン自体は無害です。

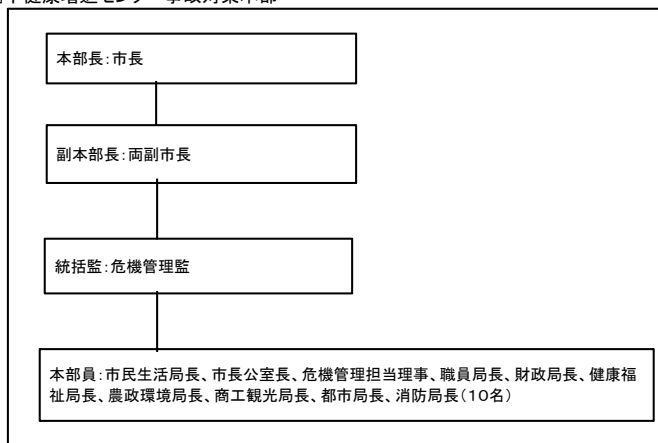
高濃度可燃性ガス検知の状況について

測定日	高濃度可燃性ガスを検知した箇所数	測定日	高濃度可燃性ガスを検知した箇所数
4/9(金)	7	4/19(月)	0
4/10(土)	0	4/20(火)	0
4/11(日)	0	4/21(水)	0
4/12(月)	1	4/22(木)	0
4/13(火)	3	4/23(金)	0
4/14(水)	1	4/24(土)	0
4/15(木)	0	4/25(日)	0
4/16(金)	0	4/26(月)	0
4/17(土)	0	4/27(火)	1
4/18(日)	0		

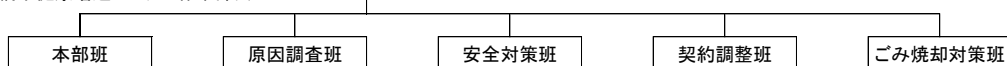
現在184箇所を姫路市消防局により測定(測定箇所は次頁のとおり)
4/27の検出箇所は4/13検出箇所と同一箇所

(4) 事故対策本部

■網干健康増進センター事故対策本部



■網干健康増進センター作業部会



(5) 網干健康増進センター事故に係る調査・安全対策検討委員会

① 委員構成

	氏名	役職名	専門分野
委員長	平野敏右	東京大学名誉教授	爆発事故、燃焼学、火災科学、安全科学、環境学、危機管理学
委員	古積博	総務省消防庁消防研究センター 火災災害調査部長	化学
委員	石塚悟	広島大学工学部教授	基礎燃焼学、燃焼工学、火災安全科学
委員	栗原英隆	社団法人全国都市清掃会議 技術顧問	廃棄物（ごみ処理施設）

② 委員プロフィール

○平野敏右（ひらのとしすけ）71歳

1970年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程修了（工学博士）

1976年 東京大学工学部助教授

1985年 東京大学工学部教授

2001年 独立行政法人消防研究所理事長

2004年 千葉科学大学 学長

【活動実績】

- ・国際火災安全科学学会会長（1997年～2002年）
- ・アジアオセアニア火災学会会長（1992年～1995年）
- ・国際燃焼学会常務理事（1994年～）
- ・日本燃焼学会会長（1988年～1994年）
- ・日本火災学会会長（1999年～2001年）

○古積博（こせきひろし）59歳

1975年 東京工業大学修士課程終了、消防庁入庁

1996年 東京大学院（工学博士）

消防研究所危険物研究室長、消防研究所危険性物質研究室長を歴任し、2010年から現職

○石塚悟（いしづかさとる）58歳

1979年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了

その後、埼玉工業大学助教授、東京大学工学部助教授等を経て、
2001年から広島大学大学院工学研究科教授
2009年から日本燃焼学会副会長

○栗原英隆（くりはらひでたか）67歳

1967年 横浜市役所入庁

要職を歴任した後、2002年同市役所を退職

2002年 社団法人全国都市清掃会議技術部長に就任

2010年から現職

（6）安全対策の概要

① 安全対策の要旨

可燃性ガスは閉塞空間に溜まることで、爆発する可能性が高くなるため建物の中の閉塞空間には可燃性ガスを逃がすための穴を開けて、安全対策を実施する。さらに建物内にガス検知器（警報器）を設置し、警報発生時には適切な対応を行うため、安全対策マニュアルを作成し迅速な対応が出来る体制をつくる。

また、屋外についても蓋を開けることで、高濃度可燃性ガスが検出されなくなったことを踏まえて、密閉タイプの蓋を使用している箇所については、ガスが溜まらないように開口部を設けるなど、安全対策を実施する。

② 安全対策の内容

ア 安全対策工事の実施

- ・ 工事日時 平成22年4月23日より順次実施
- ・ 工事概要

【屋外】（開口部を設置）

雨水マンホール	11箇所
通気柵新設（芝生広場）	43箇所
電磁弁ボックス（散水用）	15箇所
電気ハンドホール	47箇所
上下水道マンホール	94箇所

【屋内】

閉鎖空間に通気口設置	38箇所
ガス検知器（警報器）設置	31箇所

イ 安全対策マニュアルによる徹底した安全管理の実施

事故原因調査及び安全対策にかかる体制

